

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 Unité		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメントに基づき、全職員で協力して個別支援計画を作成している。	複数の評価を用いてアセスメントを行い、裏付けのある支援を意識して取り組んでいます。	独自の評価方法の作成を検討し、より適切なアセスメントと支援の充実を図ります。
2	事業所内で研修を実施し、経験豊富な職員から学ぶ機会を確保している。また、外部の専門機関から個別ケースへの助言や研修を受ける機会もあり、専門性の向上に取り組んでいる。	職員の勤務形態に関わらず研修に参加できるよう工夫し、習得した知識を支援に活かしてフィードバックを行っています。また、内部・外部の双方で相談しやすい体制を整えています。	外部専門機関との連携強化を進め、学びと支援の質をさらに高めていきます。また、自己研鑽できるような情報提供も行っています。
3	相談支援事業所が同法人内にあることで、連携の方法や、地域資源や制度理解を深めた支援を行っている。	関係機関との連携方法や支援技術を職員間で共有し、連携の質を高める工夫を行っています。 相談支援は経験豊富な相談支援専門員を配置しています。	法人内での情報共有にとどまらず、外部機関との連携や情報交換をさらに広げていく必要があります。 利用児を長く見守ることのできる体制を整え、より良い支援に繋げていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の運営が中心となり、強みがまだ十分に活かされていない。	開所して1年6カ月。みんなに覚えてもらっている段階。	一つひとつの支援を大切に積み重ねながら、皆さまに安心して選んでいただける事業所を目指します。
2	家族支援の充実。	保育園から保育園への送迎が中心で、保護者と直接関わる機会が限られるため、家族支援がHUGでの共有に偏りやすい状況があります。	今後は、HUGでの共有を補完するために、面会の機会を確保するなど、家庭とのつながりを強める工夫を検討していきたいと考えています。
3	住宅を活用した建物であるため、事業所としての設備面に一部制約がある。	建物が住宅仕様であるため、基準は充足しているものの、目的別の部屋の確保等、物理的に改善が難しい部分があります。一方で、住宅という特性から、建物に入ることが課題となる子どもでもスムーズに入りやすいという印象を受けています。	住宅という特性を活かし、出来るだけ落ち着いた環境の中で支援が行えるよう努めていきます。住宅という環境は、家庭内での環境づくりや、家族が抱える困難さを理解しやすく、家庭に寄り添った支援につなげることが出来ると考えています。